

令和6年6月
第4回清水町議会定例会一般質問事項

質 議 席	問 氏	者 名	質 問 事 項
9	佐藤幸一		1 若年町職員の早期退職等について 希望に溢れて入庁してきた職員が、退職している現状を町長はどのように捉えているのか伺う。 (1) 阿部町長が就任してから今日まで、職員として採用後10年未満で退職した人数を年度別に伺う。 (2) 阿部町長就任前の2010年度から2017年度までに同じく早期退職した人数を伺う。 (3) 退職までいかなくても、休職中の職員はいるのか。又、2010年度以降に休職した職員はいたか、人数を伺う。 (4) 早期退職や休職する原因は何か。原因にハラスメントはなかったか伺う。 (5) その原因をどのように解消しようとしているか伺う。 2 桜並木の管理について 2002年に、濱田様から寄附を受けて旧国道に植樹した桜並木は、今年も満開となり沿道を走行する方々の心を和ませている。 しかし、枯れたり折れたりしている桜が数十本あると思われる。 これらを放置するのではなく、寄附を受けた町としてしっかり管理していかなければならないと考えるが、今後の管理方法について伺う。

質 議	問 席	者 氏	質 問 事 項
1		山 本 奈 央	1 熊の出没時の対応や熊への対策について 清水町内において令和5年の熊の目撃や足跡などの通報は16件あり、過去5年間と比較すると最多で、民家の近くで目撃される例もあった。令和5年の十勝管内の熊目撃や足跡などの通報は前年の1.5倍に増えたとも報道され、今年3月、北海道ヒグマ保護管理検討会において、道内の熊の推定個体数は約1万2000頭で30年前に比べ約2.3倍に増加していると報告された。 熊出没時の対応や熊への対策について伺う。 (1) 森林や畑・農作物の被害や作業中の安全確保をどのように行っているか伺う。 (2) 駆除を行うために猟友会との連携をどのように行っているか伺う。 (3) 熊と人との境がある森作りが必要と考えるが、現状について伺う。 (4) 熊出没時・目撃時の町民への避難指示や安全誘導について伺う。 (5) 幼児・児童・生徒への安全配慮について伺う。 (6) 迅速な情報提供と日頃からの広報活動が重要であると考えるが、現状と今後の対応について伺う。

質 議 席	問 氏 名	質 問 事 項
5	中 河 つ る 子 氏	1 聞こえに不安がある人への聴力検査の実施と、加齢性難聴者への補聴器購入費の助成を 「周りの人の話が聞こえにくい」「会議や人の集まりに出たがらない」「耳が聞こえなくなってきたが補聴器は高くて買えない」、これらは町民の現実の声である。 耳が聞こえなくなると、外へ出るのが億劫になり家に閉じこもりがちになり、認知症になるリスクが増す。これらのことがわかっていてもなかなか補聴器を付けることに繋がらない。その原因の一つは、自分の聴力がどのくらいなのか把握ができていないために、補聴器を使ってみようという思いに至らないと考えられる。 補聴器は高額であり、又、買っても耳に合わず使っていないなどの話もあるため、補聴器に手を出しづらいと思われる。 については次の2点について町長に伺う。 (1) 町で65歳以上の人を対象に難聴者の早期発見を目的とした「聴力検査」を実施する考えはないか。 (2) 加齢性難聴者へ補聴器購入費の助成をする考えはないか。

質 議 席	問 氏 名	質 問 事 項
6	鈴木孝寿	1 修学旅行費の予算超過について 小中学校の修学旅行については全額公費負担であるが、一部において予算超過が確認された。3月に予算が審査され、その一ヶ月後の予算執行に際し超過することは理解しがたい。原因と今後の対応について聞く。 2 予算資料にない隠伏案件について カラオケボックスのような形態の個室ブースの設置の入札が行われ、役場1階に設置されるとの事だが、これについては3月の定例議会において一切の説明がされなかった。似たものが別の課からハーモニープラザに設置される議案があり、質疑が集中したが、それ以上の高額な購入と聞く。隠伏したとしか考えられない。このような予算及び執行の理由を聞く。また、併せて今後何を元にして議会において質疑することを求めるのか基本的な考えを聞く。 3 インターロッキングの今後の管理について 設置から30年以上経過し、除雪等において管理が難しくなったとして植栽の撤去等が行われているインターロッキング歩道だが、経年により色合いも劣化してきている。また、雑草等が目立ち将来的にどのようにしていくべきかを考える時期に来ている。過去に清水町中心商店街近代化推進協議会において設置依頼をし、町において施工したものだが、当時設置を希望した団体を含め、今後の在り方について考える必要がある。町長の考えを伺う。

質 議	問 席	者 氏	名	質 問 事 項
7	橋 本 晃 明	1 農作業機大型化に対応した道路等の整備について 近年、農家戸数が減少する一方で、一戸当たりの規模拡大による農作業機械の大型化が著しく、また、物流においても大型トラック、トレーラーの利用が進んでおり、農道、橋などの農村インフラの強化が求められている。 農業の町清水町として、この問題にどのように取り組んでいくのか伺う。 2 乳牛への鳥インフルエンザ感染防止について 米国において、乳牛の鳥インフルエンザウイルス感染事例が確認されている。 米国からの生体牛の輸入は以前から停止中で、乳牛を介して持ち込まれることはないが、野鳥からの感染には改めて注意が必要である。 町としてどのように認識しているか伺う。		